

運の科学

7 「視点」 富山和彦 経営共創基盤（IGPI）CEO

14 スペシャルインタビュー「やるべきことは一つ。方向性を指し示し、トップ同士の関係を構築する」

安永竜夫 三井物産社長

20 総論 成功に必要なのは運？ 運を味方に付ける生き方とは――

22 自分の運気を知るためにやる毎朝3回の「ソリティア」

北尾吉孝 SBIホールディングス社長

26 運の強さは大肯定と大努力から。松下幸之助に教えられた生き方

江口克彦 江口オフィス社長

28 「失敗学から考えると『運が悪かった』は、敵前逃亡です」

畑村洋太郎 畑村創造工学研究所代表

30 「認知的焦点化理論」に基づく、「運」は科学的に説明できる

藤井聡 京都大学大学院工学研究科教授内閣官房参与

32 脳と縁、運は表裏一体の関係にある

加藤俊徳 脳の学校代表、加藤ブランチクリニック院長

34 「的中率9割」のAIファンドは人間の運にも応用できる

瀬之口潤輔 カムイ・キャピタルチーフファンドマネージャー

36 「調教師になれたのも、いい馬に恵まれたのも、運に導かれたから」

角居勝彦 日本中央競馬会調教師

38 人間が本来持っていた感覚を呼び覚ます自然に学ぶ運のつかみ方
桜井章一 雀鬼会会長
40 動物キャラで運気を知りコミュニケーション向上を図る法
一面登志暁 ISD個性心理学協会会長

宇宙ビジネスの可能性

93 第2特集
94 誰もが宇宙に行き、利用できる時代へ
海外、日本の宇宙ビジネスの
動向と今後の課題 鳥嶋真也 ジャーナリスト

96 宇宙ビジネスのポイント
98 JAXAの宇宙ビジネス支援
ベンチャーとの協業を積極的に
展開し産業振興につなげる 松浦直人 宇宙航空研究開発機構
新事業促進部長

100 スカパーJ-SATの衛星通信
グローバルモバイル 小山公貴 スカパーJ-SAT 執行役員専務
分野での成長に期待 宇宙・衛星事業部門長

102 アクセルスペースの観測衛星
超小型衛星で全世界を毎日 中村友哉 アクセルスペース代表取締役
観測し未来予測を実現へ

104 お客さま目線のサービスを追求
民間宇宙ベンチャーの使命 山崎大地 ASTRAX社長、民間宇宙飛行士

50 神田昌典対談企画「知」の伝道者 大役を任せ続けた男の「覚悟」と「信念」
ゲスト 丹羽宇一郎 伊藤忠商事元社長

レポート
56 東芝メモリ買収の影の主役 産業革新機構の収支決算 松崎隆司
59 電気自動車ガソリン車を駆逐するまであと10年
62 60代を迎えた孫正義 ソフトバンク3000年の計への足固め
65 出版不況の風向きは変わるか!? 常識を覆すオンリーワン作戦!

カンパニーレポート

68 Keeper 技研 独自のカーコーティング技術で
日本に新しい洗車文化構築へ

70 バリオセキユア セキュリティ対策の「括サポ」で、
安全なインターネットを実現

144 著者が語るほんのヒトトキ

「歴史×経済」で読み解く世界と日本の未来『井沢元彦、中原圭介
監督に聞く 映画「エルネスト」 阪本順治

146 燦々トーク ゲスト 作家
111 特別企画 企業最前線2017 VOI.2

164 10 FACE 一瀬邦夫 ベッターフードサービス社長

111 特別企画 企業最前線2017 VOI.2

104 「6つの事業を掛け算し、複合企業の強みをいかしていく」

106 産業機械事業に経営資源を投入しグローバル＆タッチトップを目指す

宮内直孝 日本製鋼所社長

108 「6つの事業を掛け算し、複合企業の強みをいかしていく」

三谷忠照 三谷産業社長

160 わたしの故郷「鹿児島県」

片野坂真哉 ANAホールディングス社長

156 自慢のオフィス

熊谷正寿 GMOインターネット会長兼社長グループ代表

72 トレンドインタビュー
モダンと伝統が融合したブランドビジネスの新境地
倉田浩美 フラジヤパン社長

連載
76 深読み経済ニュース解説 ● 三橋貴明
78 WORLD INSIGHT ● 広木 隆
80 中東を読む ● 高橋和夫
81 中国は今 ● 柯 隆
82 ニューヨークレポート ● 津山恵子
83 インド市場を知る ● 帝羽ニルマラ純子
84 年収1億円の流儀 ● 江上 治
120 永田町ウォッチング ● 山田厚俊
122 霞が関番記者レポート
128 女の選択 ● 水無田気流
130 ゴルフここが聞きたい ● 中村龍明
132 Dr.加藤俊徳の脳番地塾
133 100年人生マネジメント ● 藤田紘一郎
134 スポーツインサイドアウト ● 二宮清純
55 大学シリーズ名門の系譜 ● 立命館大学
126 ● 成蹊大学
143 クローズアップ ● オーセス、オーエス、
からだ元気治療院、日本適合性認定協会
インベーターズ
135 企業EYE
140 HEADLINE
145 書評
150 エンタメK
166 From EDITOR

経済界

2017.11 No.1095

経営者のためのビジネス情報サイト「経済界電子版」

http://net.keizaikai.co.jp PCだけでなく、スマートフォンと
タブレットにも対応しています。

表紙デザイン=アートディレクター 陶山 浩 本文デザイン=オオノデザイン

やるべきことは2つ。方向性を指し示し、 トップ同士の関係を構築する

「昨年、上場以来初の赤字決算に陥った三井物産。昨年度は3061億円の最終利益を出し、今年度の第1四半期も好調なスタートを切った。この5月には新たな中期経営計画も発表、2019年度に最終利益4400億円を見込む。世界情勢の不確実性が増す中、どうかじ取りしているのか、安永竜夫社長に話を聞いた。」

三井物産社長

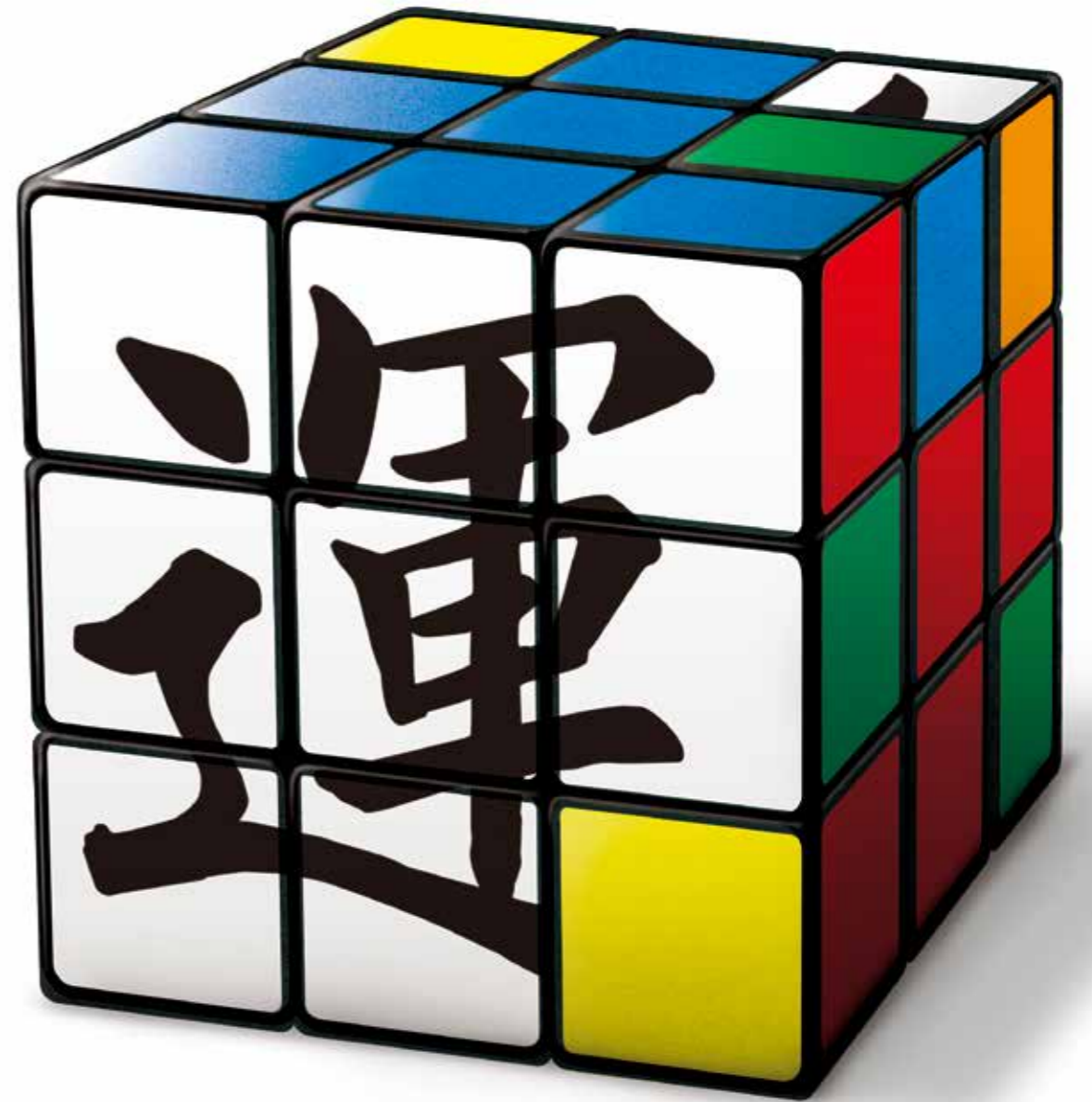
安永竜夫

やすながたつお 1960年愛媛県生まれ。東京大学工学部卒業後、三井物産に入社。入社後は、主にプラント部門を歩み、2010年、経営企画部長、13年執行役員機械・輸送システム本部長を経て、15年より現職。

強みを伸ばしながら
新たな芽を育てていく

—— 第1四半期決算は主力の金属エネルギーや機械・インフラが好調でしたが、成長が期待される非資源分野はいかがでしたか。

安永 一昨年は上場以来、初めての赤字決算でしたが、昨年度は、中核ビジネスの強化を徹底し、3061億円の最終利益を出すことができました。とはいえ、まだまだ再建途上にて、満足はしていません。ただ、課題の非資源分野で1466億円の利益を上げており、さらなる伸長は必要ですが、三井物産の非資源分野としては史上最高益を達成できました。



社長交代で経営トップに就任した新社長に、「あなたはなぜ後継社長に選ばれたと思いますか」と問うと、タイミングが良かった、あるいは上司の覚えめでたく、最後は運が良かったから、といった言葉が連ねられることが多い。日本の場合、心の中では自らの力量があったのだと思っ
てはいても、それを公言するのを憚れる風土や意識が残っているからだろう。

しかし、「あなたが今のポジションにいるのは、努力や才能はもちろんあるが、やはり運に恵まれたんですね」と重ねて言うと、ムツとするのも、また事実。

多くの人は、運に恵まれたと思う一方で、運は科学的な裏付けがあるものではないと考え、成功は自分の努力のおかげであり、失敗は不運のせいだったと考えがちだから、致し方ないのかも知れない。

ここでいう「運」、成功する人は運を味方につけることができるのだろうか、それなら運を引き寄せることができるのか、というのが今回の特集を考える発端になっている。

『成功する人は偶然を味方にする』

を書いた経済学者のロバート・フラ
ンクの主張は明快だ。

世の中には、頑張っても成功しない人もいれば、頑張らなくても成功する人もいる。経営者や成功者に関するストーリーの多くは、成功の背景にはこんな努力があった、こんな才能があった、と個人の能力を強調するが、実はそれは間違っていると著者は言う。

才能と努力なしに成功するのは難しいが、才能があり努力をしても、経済的に成功するのは一握りで、その明暗を分けているのは、ささいな「運」や「偶然」でしかない。

本書は、経営者からアスリート、さらには著者自身の実験まで、さまざまな事例や実験結果を引きながら、就活から映画・音楽のヒットに至るまで、「偶然」や「運」がいかに大きな役割を担っているかを考察している。

今特集では経営者、学者、医師、競馬や麻雀の勝負の世界に生きる人などに取材し、「運」をどう見ている、これをつかむことができるのか、といったことを聞いた。さて、運と科学の関係はいかに――。

世の中には、成功している人と、そうでない人がいる。人は、生まれる親も、生まれる環境も選ぶことはできないのだから、結果は本人の頭の良さや、その後の環境、さらに「運」にも左右されているのではないか。では、その「運」と「科学」の関係はあるのだろうか。

運の科学

特集



成功に必要なのは運? 運を味方に付ける生き方とは——

今 回の特集で「運」について語ってくれたのは次の9人の方々。

SBIホールディングス・北尾吉孝社長は、「すべてのものには波動がある」とし、算命学や易経で自分の運気を見る。さらに、毎朝パソコンに向かい、「ソリティア」というトランプゲームで自分の運気を量っている。3回続けて上がった時は、今日は運気が強く、全然上がれなかった日は運気が弱い、という。

江口オフィスの江口克彦社長は、長年、商売の神様・松下幸之助氏の側近として「強運になる方法」を見てきた。松下氏は、身体が弱く、学歴もなく、親姉兄の9人を26歳までに亡くすまいと尽くしの中から、一代で松下電器をつくり上げた。その運の強さは、すべてを肯定する考え方と、人並外れた努力を続けたからこそ、という。

松下氏のこうした考え方は、ニーチェの「永遠回帰の指輪」とカール・グスタフ・ユングの「永遠の肯定」にも通じるものだと江口氏は指摘する。指輪にはダイヤモンドが付いて輝いている箇所もあれば、サビついていて汚い箇所もある。

人生にはダイヤモンドのように輝く時期もあれば、忘れてしまいたいほど最悪の時期もある。「永遠回帰の指輪」は、自分の人生にはマイナスもプラスもあるが、トータル的人生の輪が何度も巡ってくるという意味だ。ニーチェは、自分の嫌なことで、耐え難いことなどの苦しみを仕方なく受け入れるのではなく、マイナス部分も「これで良かった」と全肯定せよ、と言っているのだ。

カーライルの「永遠の肯定」は、『衣装哲学』の中で示されたもので、「永遠の否定」から、それを超越する「無関心の中心」を経て、「永遠の肯定」に到達する人生観。これらの考え方を身につけることが積極的な生き方につながり、運を開くというところは松下氏と相通じるものがある。

逆 に、自分は運が悪かった、とマイナスを受け止める考え方、生き方をする人は、敵前逃亡だと手厳しい指摘をするのが「失敗学」の畑村洋太郎・畑村創造工学研究所代表だ。なぜならば、幸運というものは、自ら持てる力を最大限発揮し、事前に考えられるケースを十分考えた上で、結果的に事態が好転